

社会福祉法人天上会 広報誌

2022年 春号

ひろば



評議員・第三者委員就任あいさつ



評議員
村場 益夫

私は、以前役所に勤めていた頃、福祉係に5年ほど在籍していた経験以外はほとんど障がい者福祉への知識も無く、私でいいのかとの思いもありました。しかし、天上会の相談支援業務をはじめ、個々の利用者に添った様々なサービス提供など充実した障がい者（児）支援の取り組みに感銘を受け、この大役を引き受けさせていただきました。これから新たに評議員として一緒に学ばせていただけたらと

思っております。今後も天上会の基本理念をしっかりと踏まえ、関係者の皆様と共に天上会が社会福祉法人としてより安定的に発展していけるよう微力ながら貢献できるような役割を果たしたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

国の障がい者（児）に対する支援制度も徐々に拡充されていると聞いておりますが、更に利用者が利用しやすい制度へと改善されていくことを願っております。



評議員
貴島 正勝

この度、天上会の評議員をさせていただくことになりました。コロナ禍で利用者の皆様とお会いする機会がありませんが、皆様の活躍の場を見させていただくことを楽しみにしています。

私は、昭和52年に吾平町役場に就職後、鹿屋市と合併して定年までの約半分以上を福祉部門でお世話になりました。主には高齢者福祉を担当しましたが、ある時、友人から「福祉制度はまだまだだ」と不満を言われました。彼には障がいを持つ

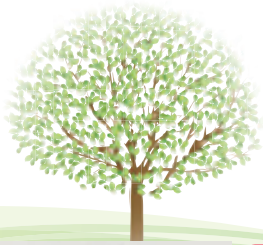
子どもがいて、現存の制度の中で皆に喜んでもらっていると勘違いしていた自分が恥ずかしく、友人の衣着せぬ言葉に職務に取り組む姿勢を教えられたことを覚えています。日本の福祉制度は、未だ発展途上かもしれませんが、私財を投じて福祉に貢献される社会福祉法人の取り組みは素晴らしいと思います。評議員として、皆様と一緒に更なる幸せの向上を目指して頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。



評議員兼第三者委員
阿部 幸一

令和3年6月より評議員をさせていただくことになりました。阿部幸一と申します。前任者の白濱先生がおいでになって、どうしても評議員引き受けてと依頼がありました。私と白濱先生とは高山中学校のPTA活動で長い間のお付き合いがあり、大変お世話になっておりましたので、これはお断り出来ないと思いました。私は昭和23年生まれで73歳になります。同級生で23日会と言う会を作り新

樹楽園に餅つき大会とクリスマスプレゼントを計画し実行してきました。ボランティア活動を45年程続けた縁で、今回の評議員という重責を賜ったと思います。専門的な見識等全く持ち合わせていない私でございますが、役員の皆様方の末席を汚させていただきたいと思います。微力ながら天上会のお役に立てるよう精一杯頑張っていこうと思います。



新任職員紹介

新たに入職した、フレッシュな新人さんから、経験豊富な頼もしい職員を紹介します。新しい仲間とともに、より質の高いサービス提供に努めてまいります。

新樹楽園 生活支援員

堀添 友乃

- ① 体力に自信があるので、利用者の方々と日々の活動を頑張っていきたいと思います。
- ② 元気・職員同士の情報共有(チームワーク)
- ③ ドライブ・買い物
- ④ ありがとう



① アピールポイント

③ リフレッシュ方法

② 仕事に欠かせないもの

④ 好きな言葉

照葉の森 看護師

前田 さやか

- ① 元気
- ② 相手に対して思いやりを持って接するように気を付けています。
- ③ 休日に昼寝をしたりと、ゆっくり過ごす、子どもと一緒にアニメを見る。
- ④ 一期一会



本部事務所

白坂 聡子

- ① いつも笑顔！
- ② コミュニケーション。報・連・相
- ③ 時間のある時に走ったり、泳いだり、山に登ったりします。
- ④ 一期一会



はなのご園

古賀 稜悟

- ① 責任感が強いことと、緊張しやすいですが話をすることが好きな事です。若輩者で経験不足ですが、よろしくお願いします！
- ② 相手の心や考えについて考える事、思いやる事だと思います。
- ③ 何も考えず話す、友達と話すことです。
- ④ 気遣い



めぶき園 作業療法士

鮫島 佳代

- ① 一緒に何事も全力で楽しむこと。笑顔を大切にすること。人との関わりや繋がりを大切にしながら、日々邁進していきたいです。
- ② 温泉・子育て・時々家庭菜園
- ③ よく寝る、断捨離をする、旅行、おいしい物をたくさん食べる事
- ④ 一期一会



今年一番心に残ったできごと

2021年の仕事納めの際に、全職員から募集した「今年一番心に残ったこと」のなかから、特に心に残った内容を紹介いたします。

カイロス

サービス管理責任者（令和4年3月当時）

新保 真一 平成17年4月入職

ある時、利用者のAさんが「Fさんは来ないの？」と尋ねて来られた。Fさんは、数日前までカイロスを通所利用されており、家庭の事情で入所施設へ移行することになった方である。

私が『そうですね。寂しいですね。』と返すと、Aさんは目線を下に落としながら『Fさんはココにいるよ』と自分の胸に手を当てられた。私は、ふと「そういえばFさんと利用者の方々は、直接別れの挨拶が出来なかったな…」と思った。Fさん家族、支援者ともに苦渋の決断であったが、スムーズに入所施設へ移行してもらうために前もって伝えることが出来なかったからである。

しかし、何年と一緒に過ごしてきた人との別れに「さよなら」を言えなくて良かったのだろうか。明

日から来ないとわかって過ごすのと、急に来なくなってしまうのでは心の受け入れ方として全く違うのではないかと思います。

近年、障がいのある方の支援では自己決定や意思決定と言われるが、まだFさんのように、本人へも知らせないまま進めざるを得ないケースがある。

確かに、状況によっては葛藤に直面させない配慮も必要だが、心の揺れに向き合う過程を支援する力も大事ではないかと思う。「障がいがあるから」ではなく、あらゆる当たり前に対して疑問を持ち続けられる支援者でありたい。



新樹楽園

生活支援員

平野 龍子 平成 23 年 3 月入職

N さんは今、車椅子で過ごされています。

本人は、歩きたい気持ちもある様子ですが、まだ不安なのか車椅子が離せないでいます。

活動のある日は、朝早く活動室の窓際に居て、外を眺める日が続いていました。寂しそうな表情でもあり、一人を楽しんでいるのかも知れず、話しかけても嫌がるのではないかと思います理由を尋ねると、「車が通るのを見るのが好きだから。」という答えが返ってきました。寒い日でも一番にやってきて職員が来るのを待っている様にも思えました。

待つことの多い N さんの口腔

ケアと一緒に済ませ、「後でリハビリもしましょう。」と声を掛けて他の利用者の方を介助していると、N さんが笑顔で「さっきはありがとうございました。」と丁寧に挨拶してくれました。

私の心を温かくさせてくれた N さんの笑顔は、言葉掛けや支援が利用者の方々にとってとても大切であると改めて気付かされた笑顔でした。



相談支援事業所 拓(ひらく)

相談支援専門員

本郷 朋美 平成 23 年 3 月入職

震度 4 の地震があった日、A ちゃんの保育園も揺れました。A ちゃんが泣いて不安になっていたところ、A ちゃんを真ん中に、お友達が周りを囲み、保育園の訓練でやっていたダンゴ虫のポーズで A ちゃんを守ってあげていたとの事。先生が指示をしたわけではなく、こども達が、いつもの訓練通りに、自主的に動いたとの事でした。

A ちゃんに対し、お友達はいつも手をひいて移動してくれるそうです。A ちゃんが保育園で大きな困り感もなく過ごしているのは A ちゃんのことを理解してくれるお友達がいたからだ嬉しく思

いました。事業所での支援ももちろん大切ですが、日

常での環境の大切さを改めて感じました。そして日頃の災害訓練が重要であると、こども達から学びました。

被災時には、日頃一番近くにいる人達の協力は不可欠です。周囲の理解、関わりが、安心した生活、そして被災時の動きにも繋がっていく事を、こども達を通して学ばせてもらいました。



めぶき園

児童発達支援管理責任者

藤村 弘美 平成 19 年 3 月入職

めぶき園では、こどもの支援とともに保護者支援も大切にしています。保護者の気持ちに寄り添い一緒に歩いていきたい、そう思うのですが、“あの時あのお母さんへなんてことばをかけたらよかったのだろう？”と考えることが多々あります。

今年は、悩んでいるママと先輩ママをつなぐ、ミニ茶話会開催などママ同士をつなぐことをしました。共感したり泣いたり笑ったりママたちの表情が明るくなるのを感じました。

親子通園で、泣いている子のママへ、先輩ママが「うちの子も泣いていたよ」と優しく声をかけ

てくれます。小さな変化に気づき「泣かなくなったね」と一緒に喜んでくれます。

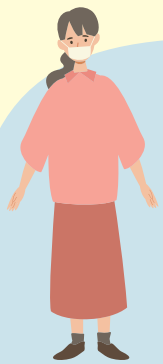
親子通園のよいところはこれだなと感じます。

コロナ禍で、皆で集まる機会が減り、横の繋がり、縦の繋がりが薄れています。

“ママ同士をつなぐ”今年、私が取り組んだことです。これからも悩むこと、迷うことがあると思いますが、こどもたち・お母さん方のために自分にできることをしていきたいです。



今年一番 **心**に残ったできごと



コロナ禍での支援



新樹楽園

★おうち DE ごはんシリーズ in 新樹★

管理栄養士 関 久美子

一昨年より始めた「おうち de シリーズ」は季節感を織り交ぜながら「お弁当、外食、テイクアウト風、リクエストメニュー等・・・」毎月テーマを決め、いつもとはちょっと違う献立の日として設けています。きっかけはコロナ禍で、外出、外食、帰省等の機会が減り、不安やストレスを抱える利用者様へ、何か出来る事は？と考え始めた事でした。食べる側も作る側も一緒に「楽しむ」をコンセプトに、限られた予算の中で試行錯誤しながら奮闘中です。言葉や様々な表情で返してくださる「笑顔」や「喜び」が私達の一番の原動力であり励みにもなっています。今後も「食べる楽しさ」を感じてもらえる様、色々な機会を作っていきたいと思っています。



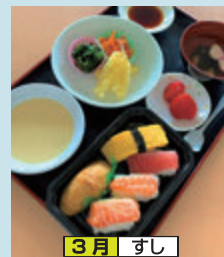
1月 中華丼



2月 のり弁



2月 スパゲッティ



3月 すし



4月 ハンバーグ弁当



5月 海鮮丼



6月 ハンバーガー



10月 オムライス

生活支援員 前原 孔太

新樹楽園ではコロナ禍で秋祭り、運動会、クリスマス会などの行事を開催しました。例年に比べると規模を縮小しての実施となりましたが、皆さんの笑顔溢れる素敵な行事になりました。10月の秋祭りでは、カラオケ大会やユニット毎の出し物、盆踊りを皆で踊り、昼食は祭りの屋台を模したメニューを食べ、午後からは、ゲーム大会を楽しみました。11月の運動会では、パン食い競争や、玉入れ、大玉転がし等入所の利用者さんが主役となり参加出来る種目を実施しました。12月のクリスマス会では、コロナウイルスが落ち着いていた期間だったので、大黒グランドホテルで実施する事ができました。久しぶりに皆揃って外での食事となり、とても楽しまれ、サンタからのプレゼントも大変喜ばれていらっしゃいました。いつまで続くか分からないコロナ禍ですが、利用者さんに楽しい生活を送って頂ける様、今後も行事等考えていきたいと思っています。



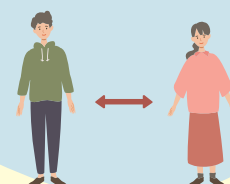
10月 秋祭り



11月 運動会



12月 クリスマス会





コロナ禍での支援



カイロス

わたぼうし

カイロス・わたぼうし合同遠足

わたぼうし 生活支援員 梶井 明希

令和3年11月19日(金)にカイロス・わたぼうしで初めての貸し切りバスをチャーターし平川動物公園まで遠足に行きました。コロナ禍で行事も殆ど実施出来ずにいた中で、感染者数も減り行くなら今しかない!!と計画しました。数日前より利用者の方もとても楽しみにされ、職員お手製のしおりを嬉しそうに何度も見ている姿がありました。車内では、感染防止の為カラオケ等実施出来なかったですが帰所後、利用者の方から「お土産を買ったよ」や「こんな動物がいて」等思い出話を笑顔で話されている姿があり実施出来良かったと感じました。まだまだ、気の抜けない日々が続いていますが今後も感染予防等に努めながら皆さんが楽しめる行事等を実施出来たらと思います。



照葉の森

次長 本田 友宏

コロナ禍も2年がたとうとする頃、それまで行事や外出を制限してきて、利用者の皆さんのストレスも最高潮に達してきていました。何か出来ないかと色々考えていた最中、感染者数が減少に転じてきたところで、思いっきり外出を計画しました。

令和3年11月5日(金) 志布志方面への外出。出発前から利用者さん22名のそれぞれの笑顔が印象的で、やっぱり外出は嬉しいんだと私自身も嬉しくなりました。

まず、大黒ホテルコースの昼御膳を食べ皆さん満足。そしてイルカランドへ行ってきました。メインのイルカショーではイルカランドさん側からバルーンを頂いたり、利用者さん数名がステージに出てイルカにボールを渡したりして、はち切れんばかりの笑顔でした。

皆さんそれぞれお土産を購入し帰路につきました。本当に今まで見たことのない笑顔を見ることが出来て外出の計画をして良かったなと思いました。

まだ、しばらくコロナ禍は続いていきそうですが、コロナ禍の中でも何か出来ることを考えていき、利用者の皆さんの笑顔を作っていければと思います。



支える人

第7回

「カイロスで働く人達」

今回は、地域の会社で長年働き定年を迎えた先輩方が、再雇用先に全く異業種であるカイロスに生活支援員として入職され、利用者の方々と出会いながら、仕事に励んでいるパワフルシニアの皆さんにスポットを当ててみました。

質問

Q1 カイロスでの仕事

Q2 好きな言葉

Q3 利用者との関わりのなかで心掛けていること

Q4 この仕事（障がい福祉）に就いてみて感じる事

◆ 宇都 信行

A1 柵管理（収穫、切り分け、くくり、農薬・除草剤散布、剪定）・木工全般。

A2 笑顔で楽しく スマイル。

A3 利用者に対して興味・関心を持ち理解を深めていくことが大切であり、その人がその人らしく生きていけることを心がけています。

A4 利用者の皆様の生活が守られてその一部として私たち支援者（従事者）が関わっています。



◆ 平野 豊

A1 牛・牛舎管理。

A2 自由。

A3 ふれあい、コミュニケーションを深めて心の変化や行動に重視しながら過ごす。

A4 自己中心的なことをしてはいけない、通してはいけない、やってはいけない。



◆ 松元 良一

A1 柵管理（収穫、切り分け、くくり、農薬・除草剤散布、剪定）・木工全般。

A2 愚直に生きる。

A3 自分本位に物事を進めない。

A4 常に一歩下がって利用者のペースに合わせて動く必要性。



★★★★★

5つ星の畜舎最優秀農場の称号

★★★★★

近年、住宅地と混住化してきている畜産農家の畜舎等環境の向上と地域住民の畜産への理解を図る目的で、肝付町畜舎等環境コンクールが開催され、頭数ごとに5戸の農家が最優秀農家として選ばれ、「カイロス」の牛舎も、見事5つ星の畜舎最優秀農場の称号を手に入れました。



出口さんとお別れ

カイロス施設長 松元 輝徳

昨年10月、一人の女性利用者さんが、天国へ旅たれました。67歳とまだまだこれから色々な人生があったかと思います。13歳で児童施設新樹学園に入所その後愛知県に就職、17年勤めたのち自宅に帰り稼業の農業を手伝い再び縁あって新樹学園の通所を利用いただき、毎日元気に登園されていました。



平成18年から、福祉サービス事業所「カイロス」に移行され、室内作業を主に行い、時々農場の野菜の収穫等をして頂いていました。そんな真理子さんが、体調を崩され入院、大きな手術をされ数か月後、利用再開しました。

2年後再び入院。病魔と闘いながら生きようと懸命に頑張ってきましたが、令和3年10月14日お別れのときが来ました。明るく笑顔が素敵な彼女の思い出はいつまでも、私たちの心の中に生き続けます、ゆっくりとおやすみください。



編集
後記

お読み頂きありがとうございました。

表紙の写真は、昨年11月、コロナ禍のなか状況が少し落ち着いた時期に主催者が規模を縮小して感染対策を行いながら実施された“とっておきの音楽祭”に参加したときの様子です。こども達はいつの時代も無条件にかわいい、見ているだけで私たちを笑顔にしてくれます。この子たちの未来が、どうかどうか得体の知れない感染症や震災、悲惨な戦争のない世の中でありますように。

広報委員：木村 恵智子